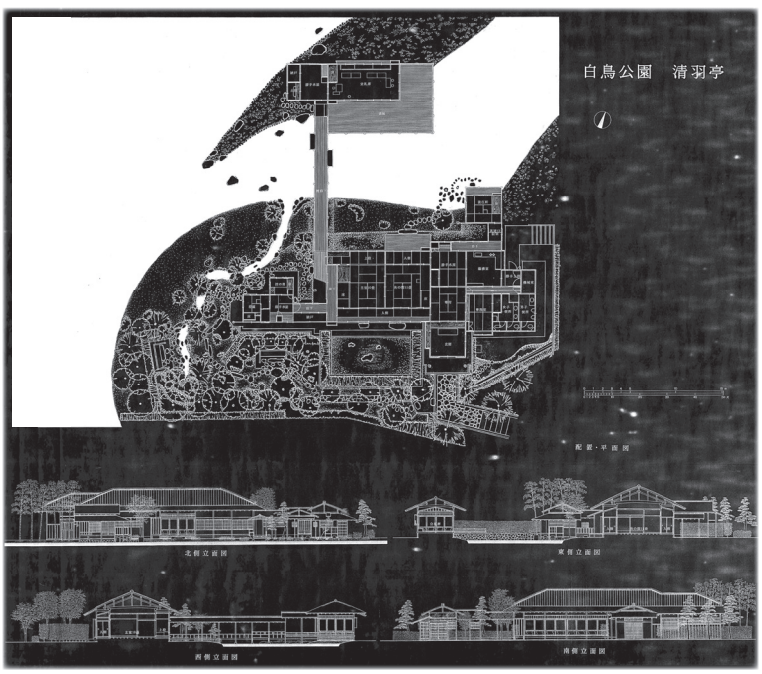


清羽亭建築35年記念展

中村昌生の仕事

— 和 楽 の 場 と し て の 公 共 茶 室 —



中村昌生 写真左
(1927-2018年・愛知県生まれ)
清羽亭設計者。
数寄屋建築家・建築史家。
1960年、伝統技術の継承と発展のため
(財)京都伝統建築技術協会を設立、理
事長をつとめる。
茶室や数寄屋建築の研究の大家として
知られ、全国各地の数多くの「公共茶室」
の設計や伝統建築技術の継承・発展の
ための活動は、日本社会に大きな貢献を
残すものとなった。

茶室「澄蘆」 点前座より床側をみる
二畳台目、出炉に出来る一番狭い茶室。
そこへ台目床を設け、中柱を立てて台目
構えをつくる。

吉江勝郎 写真右
(1938年・福井県生まれ)
数寄屋建築家。
1977年より中村昌生博士に師事し、
清羽亭など数多くの「公共茶室」の設
計に従事。
現在(一財)京都伝統建築技術協会
の理事をつとめる。

清羽亭 和楽の場の魅力

茶の湯が大衆化の時代を迎えて、多くの愛好者が自由に使えるような公共的な茶室が望まれ、現代の課題となっていた。それはまた現代の茶室をつくることでもある。
「中村の仕事」となっていた“公共茶室”はそれに応えることとなって、日本社会に広く迎えられた。

澄蘆土間底より中洲の立礼席を望む
中洲の立礼席棟に架けられた廊橋が庭屋一如の景を豊かにする。

- 期間 5月3日(水)～7日(日)
- 場所 清羽亭
- 監修 (一財)京都伝統建築技術協会理事 吉江勝郎
- 協力 (一財)京都伝統建築技術協会 (株)渡邊工務店

「和漢のさかいをまぎらかすこと肝要」と説かれた茶の湯は、異文化を巧みに吸収して独自の境地を創りあげる日本文化の特色を漲らせている。この日本文化の神髄に通じた鉾脈を中村昌生博士の高い学識は、早期に認知していたと思われる。

緊張感に満ちた茶室空間を創り上げた茶匠たちの創造の秘密、茶の湯の蔵する造形のソフトを解明しようとする博士の茶室研究は、数寄屋造りの造形の特徴を探求することと繋がる。そして過去の歴史様式ではなく現代に生き、未来に発展しうる数寄屋造りに「現代の和風」を捉えるのである。

この道程の博士の試みは、論文と、論述していない内容の試見や提言を一連の物創り、すなわち多くの「公共茶室」作品に託す歩みとなった。それはまさに、伝統に軸足を据えた生き方そのものであるといえ、その作品からは日本の伝統の真価を創出しているのが窺知できよう。

ここでは、そうした中村昌生「公共茶室」の代表作の一つで、公共茶室の傑作と云われて久しい「白鳥庭園茶室 清羽亭」を「中村昌生の仕事」と共に紹介する展示を企画致しました。

(吉江勝郎)



広間 市民の和楽の場となった茶会風景
公共の茶室となれば、「大寄せ」の茶会に使用されることが条件となる。さらに茶会以外の行事にも適応しうる多目的性が要求される。

展示見学

清羽亭建築35年記念展「中村昌生の仕事」をどなたでもご覧いただけます。

●日時 5月3日(水)～7日(日) 9:30～10:15 12:30～13:15 14:00～14:30 (時間内出入り自由)

●場所 清羽亭 広間

●持ち物 靴下または足袋

ギャラリートーク『中村昌生の仕事』

お菓子とお茶を頂きながら、普請にまつわるエピソードを交えて中村昌生の仕事を語ります。

●日時 5月6日(日)・7日(日) 13:00～14:00

●場所 清羽亭 立礼席

●講話 吉江勝郎 (一財)京都伝統建築技術協会理事

●料金 1200円(呈茶付き)

●定員 各日20名

●持ち物 靴下または足袋

●予約 事前予約制

※予約方法詳細は下記をご覧ください。

清羽亭俯瞰
広間棟を中心に、西側茶室「澄蘆」、東側茶室「汲江軒」そして北側中洲の立礼棟に伝う廊橋の屋並みが美しい。

展示見学付き茶席

和楽の場「清羽亭」のお茶席を、中村昌生の仕事展とともに楽しみたいできます。

●日時 5月3日(水)～7日(日)(雨天決行)
①10:00／②10:45／③11:30／④13:00
⑤14:15／⑥15:00／⑦15:45(茶席と展示見学で約1時間)

●席主 ○5月3日(水)立礼席(中国茶席) 楽工房 岩崎康直
○5月4日(木)立礼席(薄茶席) 裏千家 加藤宗典
○5月5日(金)野点席(薄茶席) 表千家 水野明水
○5月6日(土)野点席(薄茶席) 裏千家 久田宗恭
澄蘆(濃茶席) 尾州有楽流 水野宗栄
○5月7日(日)野点席(薄茶席) 松尾流 横地宗鎖
澄蘆(濃茶席) 尾州有楽流 水野宗栄

●料金 (展示説明冊子付)
立礼席・野点席(薄茶席・中国茶席)……800円
澄蘆(濃茶席)……1300円※お着物がジャケット着用にて
ご来席ください。記念撮影付き。

●定員 立礼席・野点席……一席20名／澄蘆……一席4名

●持ち物 靴下または足袋

●予約 事前予約制

※席数に限りがありますので、ご予約はお早めをお願いいたします。 ※予約方法詳細は下記をご覧ください。



伝統芸能

中村昌生の仕事「公共茶室」の一例として多くの方に伝統芸能を楽しんでいただきます。

●開演 5月5日(金)(雨天決行)

●場所 白鳥庭園内宮の渡し広場

常磐津 10:30／13:30
ときわづ網連/常磐津綱鵬、
常磐津綱実、常磐津綱千華
江戸時代に誕生した「聞く歌舞伎」とも言われる《常磐津》。当時はあまりに流行り過ぎて幕府から禁止令が出たほどの人気でした。今回はその常磐津を分かりやすく説明を入れながら、お楽しみ頂きたいと思います。

展示見学	展示見学付き茶席	ギャラリートーク	芸能
3日(水・祝)～7日(日)	6日(土)・7日(日)	5日(金・祝)	
9:30～10:15	一席目 10:00～11:00 二席目 10:45～11:45 三席目 11:30～12:30		常盤津 10:30～11:10 箏と尺八 11:30～12:10
12:30～13:15			
	四席目 13:00～14:00	13:00～14:00	常盤津 13:30～14:10 箏と尺八 14:30～15:10
14:00～14:30	五席目 14:15～15:15 六席目 15:00～16:00 七席目 15:45～16:45		

「箏と尺八」11:30／14:30
生田流箏曲・三つ音会、
琴古流尺八・竹風会
「池の島に設けた立礼席と広い縁側で、仲秋の夜、月の光の中でお茶と箏の演奏を楽しみたい」との作庭時の主旨から、開園初年度から清羽亭での演奏を行っています。今回も江戸時代より続く三曲合奏(三絃・箏・尺八)の調べをお聞きください。



予約方法

●澄蘆(濃茶席)は、白鳥庭園でのご予約のみです。

●A⑥それぞれの販売枚数が売り切れ次第終了となります。お早めにお買い求めください。

●日時変更、払い戻しはいたしません。

●詳細、最新の在庫状況は白鳥庭園管理事務所まで電話でお問い合わせください。052-681-8928

●A白鳥庭園正門窓口 ※電話でのご予約は出来ません

●予約期間 3月25日(土)～各席前日まで

●予約方法 白鳥庭園正門窓口までお越しください。(9:00～17:00／毎週月曜休園)

●B名古屋市文化振興事業団チケットガイド ※澄蘆のご予約は出来ません

●予約期間 3月25日(土)～4月21日(金)まで(窓口購入のみ5月1日(月)まで)

●予約方法 下記電話、またはQRコードのリンク先「メール予約」からご予約ください。

〈チケット取り扱い〉
名古屋市文化振興事業団チケットガイド
TEL 052-249-9387
(平日9:00～17:00／チケット郵送可)
※名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口(土日祝日も営業)でもお求めいただけます。
(工事休館などがありますので、事業団ウェブサイトでご確認ください。)